

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082



在京花巻人会

会長 瀬川 紘一



明けましておめでとう
ございます。新しい年が
皆様にとりまして幸多き
年となりますよう心より
祈念申し上げます。又、
昨年中に在京花巻人会に
お寄せ頂いたご支援、ご
協力に感謝致しますと共
に、今年もどうぞよろし
くお願い申し上げます。
さて、ついこの間戦後
70年という節目の年を迎
えましたが、もう今年
は戦後72年目に入りま
す。しかし、私は未だに
戦後をどう考えたら良い
のか明確に答えられませ
ん。特に最近の日本を見
ていると、戦後の72年は
一体何だったのだろうか
さえ思います。一方、世
交代代はどんどん進んで

おり、次の世代にどんな
メッセージを残せるのか
いうだちを感じる新年と
なりました。
物心ついてから戦後の
歴史と歩調を合わせて来
た自分から見ると、やはり
日本は26年前の1991
年のバブルの崩壊から混
迷が始まったように思
います。そして、そこまで
遡ってみると、その前の
70年代80年代にこそ実は
日本の戦後の流れを細解
くヒントがあったように
私には思えます。
1970年に「モーレ
ツからビューティフル
へ」という衝撃的なCM
が流れ始め、1976年
にはドイツ生まれのイギ
リスの経済学者シユー
マッハーの「スモール・
イズ・ビューティフル」
が邦訳されました。19
84年には山崎正和が
「柔らかい個人主義の誕
生」を書き、新しい時代
に向かう人々の生き方の
変化を描きました。
この時、既にポスト成

長の時代の到来が認識さ
れ、身の丈に合った経済
活動や成長・効率・競争
主義からの転換が示唆さ
れています。さらに言え
ば、小さくても地方の自
然や地域とつながった生
活を維持する経済活動の
重要性すら提起されてい
るのです。
一方で、かつての産業
社会の硬い個人主義では
ない柔らかい個人主義を
身に着けた、新しい価値
観としなやかな行動力を
持つ若者の出現も確認さ
れていました。
今日、このまま行けば
地方自治体の半分は消滅
すると言われ、又、日本
が抱える借金は千兆円を
越え返済の目途はたつて
いません。バブル崩壊後
の26年間、人口減や高齢
化が進むことが解ってい
ながらこの体たらくで
す。
遅まきながら、ここは
地方から日本を再生させ
るしかないと思います。
幸いにして、既に地方は
動き出しており、柔らか
い個人主義の若い人達の
多くが地方を目指し始め
ています。



花巻市長 上田 東一



地方を出て首都圏に住
まう私達は、やはり頑張
る地方の応援団でありた
いと思います。ふる里花
巻を応援する、そんな
願いを持ち続けながら、
又、会員の皆様が楽しく

あけましておめでとう
ございます。
花巻在京人会の皆様にお
かれましては、つつが
なく新しい年をお迎えるの
こととお慶び申し上げます
とともに、日頃より市
政の推進に格別のご支援
ご協力を賜り、厚く御礼
申し上げます。
昨年も大迫・石鳥谷・
東和の在京人会との合
同企画として実施され
た「ふるさと復興支援ツ
アー」をはじめ、ふるさ
ととの交流を通じた暖か
いご支援を賜り、重ねて
御礼を申し上げます。
さて、昨年10月には希
望郷いわて国体・希望郷
いわて大会が盛大に開催

参加し集える機会を出来
るだけ多く持てるよう、
今年も在京花巻人会は活
動を続けてまいります。
どうか活動にご参加頂き
ますよう、よろしくお願
い申し上げます。

また、昨年は宮沢賢治
の生誕120年の節目で
ありましたことから、宮
沢賢治童話村をメイン会
場にイーハトーブフェス
ティバルを開催すると
ともに、宮沢賢治童話村の
ライトアップや宮沢賢治
記念館、イーハトーブ
館、博物館などで夜間も
施設を開放するナイト
ミュージアムを行うなど
の生誕記念事業を行い、
好評を博しました。
平成27年度より採用を
開始した地域おこし協力
隊は総勢で12名となり、
各地域の課題解決に取り
組むとともに、新しい視
点から花巻の魅力を全国

へ発信しております。
本市は、様々な課題を
抱えておりますが、市民
一人ひとりが安心して
いきいきと暮らせるよう、
今後市民と協働のまち
づくりを進めてまいりま
す。

在京花巻人会の皆様
に、首都圏での情報発
信、移住や交流に関する
施策に積極的なご協力を
賜っておりますことに、
改めまして感謝を申し上
げます。今後とも、花巻
市の一層の発展のためご
支援くださいますようお
願いたします。
本年も皆様にとつて健
やかで幸多き年となりま
すようお祈り申し上げ、
新年のごあいさつといた
します。

**平成29年度
「第32回在京花巻人のつどい」のお知らせ**
日時：平成29年7月8日(土) 11時～14時
会場：東京ガーデンパレス
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口改札

会員の活動報告コーナー

近隣ふるさと会 に参加して



理事 菊池 美津子
(花中41年卒)

9月24日、原宿のリス
トランテ・ベニーレ・ベ
ニーレ(6F・ミラノ)

にて開催された在京金ヶ
崎人会主催の近隣ふるさと
と役員親睦交流会に、
在京花巻人会からは瀬川
会長始め7名が参加、50
余名の多くの皆様と楽し
いひと時を過ごさせて頂
きました。

今回は8ふるさと会が
集まり、其々の地域の自
然・生活環境の活気あふ
れる自慢のスピーチには
大変感動しました。特に
今回お世話頂いた「金ヶ
崎人会」さんの郷土愛は
勿論のこと、岩手県の中
で将来ともに存続する自
治体のNO.1にランク
されている理由もなるほ
どと理解できました。
「人は人と関わり人と

百周年を迎えた

在京大迫人の集いに参加して

副会長 島山 秀

なる」と言いますが、幼
少期や多感な思春期を共
にした郷土人とは堅苦し
い挨拶抜きに打ち解ける
事が出来、とても心が和
らぎました。そして最後
はビンゴゲーム、カラオ
ケと楽しいアトラクショ
ンで時間を過ごし、金ヶ
崎人会名誉会長・小田守
正様の三三七拍子で閉会
となりました。

この度は、皆様から頂
いたパワーと温かい交流
で益々心豊かになり、参
加させて頂きましたこと
に感謝しております。

と粘り強さが
活かされた素
晴らしい成果
であると感じ
致しました。
又、集いに先
立って開催さ
れた国の重要
無形文化財早
池峰神楽の公
演も大変素晴
らしいもので
十年前の合併
で花巻に大き
な財産が増え
た事を再認識
致しました。



これがうわさの

在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会

理事 小池 拡子

秋晴れの11月6日上野
精養軒で在京石鳥谷町
人会総会・親睦交流会が
開催され、素晴らしい集
いとこのうわさで私も勧め
られ、初めて参加しまし
た。

開会のご挨拶の後、物
故会員に黙祷、在京石鳥
谷町人会歌斉唱等、初
めての経験です。総会は
恙なく進行し、来賓の
方々からのご祝辞、出席
者のご紹介、そして親睦
交流会の開会を告げる乾
杯です。突然にぎやか

な音楽に乗っ
て華やかな衣
装の女性群入
場です。これ
がうわさのフ
ラダンスです
か。練習の成
果がみられる
指先、腕の動
き、腰振り、
やんやの拍手
です。見とれ
ているうちに
会場の一隅に
人だかりが出
来ています。
これもうわさ



のお餅です。ね。胡麻、ク
ルミ、ずんだ、ゴマなど
皆さんわくわく顔で並ん
でおりました。毎年石鳥
谷の郷土芸能が披露され
ますが、今年は八重畑五
大堂神楽が披露されまし
た。また踊り手には中学
生が、お囃子には小学生
が混じり、初々しくて可
愛らしく新しい神楽の有
り様なのかもしれません
ね。最後にふるさと特産
品抽選会が有り、抱えき
れない程のお土産をいた
だき心楽しく上野の山を
下りました。

《はなまき あれこれ》

希望郷いわて国体成功裏に終了

第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」が10月1日から11日まで県内各地で開催され、大きな盛り上がりを見せて終了しました。岩手県では46年ぶりの開催となりましたが、花巻市では全7競技が市内8カ所の競技会場で行われ全国から選手や監督、それに多くの応援団の皆さんが訪れました。

開催に先駆けて、8月27日には花巻市^{きよかしか}炬火式が賢治記念館のポランの広場で採火されました。花巻市の炬火には「賢治銀河の火」と命名され、賢治の誕生日である8月27日に採火されています。

花巻市では、サッカー成年男子、ボート全種別、バレーボール少年男女、ハンドボール全種別、ソフトボール成年男女・少年少女、クレ射撃全種別、硬式高校野球の7種目の競技が開催されました。

又、10月22日から24日まで開催された第16回障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」では、ソフトボ-

ル(知的障害者)、フットベースボール(知的障害者)、バレーボール(身体・知的・精神障害者)の3種目が開催されました。

花巻市を訪れた選手・監督それに応援団の皆さんに対しては、市民の皆さんの厚いおもてなしによって、好印象を持って帰って頂いたものと思います。

競技で特筆すべきことは、高橋英輝選手の成年男子1万メートル競歩での優勝です。花巻市出身の初めてのオリンピック選手ということでリオ・オリンピックに参加した同選手は、残念ながら42位と振るいませんでした。ただ、まだまだこれからのオリンピックでメダルを狙える選手であり再起が待たれていましたが、今国体での優勝で

今後の活躍の目途が立ったとの見方が有力となりました。

(広報はなまき、岩手日報より)

マルカンの食堂再開と花巻家守舎の活躍

8月31日の毎日新聞によりますと、花巻家守舎の小友代表が30日に記者会見し、マルカン食堂を来年2月に再開することを明らかにしました。当初6億円と見込まれた再建費用が3億円で圧縮され、市民からも2千万円を超える資金が集まり再開の見通しが立ったとのこと。

又、マルカンデパートの1階も来年6月迄にはオープンを予定していますが、2階～5階の予定は未だ立っていないとのこと、何とか頑張ってもらいたいと思います。

ところで、花巻家守舎はこれまでも花巻のシャッター街を活性化するプロジェクトで色々な成果を上げています。駅前エリアでは、小友ビルの1階に「ジョーズ ラウンジ」、2階には「カフェ マーブル」と二つのお店がオープンしています。素敵な1階のラウンジでは、コーヒー一杯でくつろぐ老若男女が目に留まります。2階のカフェには約30畳のヨガスタジオが併設されており、年配向けや妊婦向け、さらには赤ちゃんと一緒に参加するベビーヨガなど多彩なクラスが展開されています。勿論、カフェには花巻産の雑穀や野菜などの食材を使った全て手作りの惣菜が並んでおり、岩手の恵みを楽しめるようです。

花巻に帰る機会がありましたら、是非一度訪ねてみては如何でしょうか。場所は花巻市大通り1-4-14小友ビルです。1階のラウンジは火曜が定休日、2階のカフェは年中無休とのことですよ。



ジョーズ ラウンジ



カフェ マーブル

(毎日新聞と秋の「花日和」より)

花巻市の平成27年度決算と財政状況

地方創生が叫ばれている今、地方の市町村の財政状況が注目されています。我がふるさと花巻市の財政状況はどうなのでしょう？9月の花巻市の定例議会で承認された平成27年度の決算を中心に紹介してみたいと思います。

市の会計には、「一般会計」と特定の収入で特定の支出を賅う「特別会計」があります。27年度、一般会計の歳入は511億4649万円、歳出は492億6739万円で、差し引きプラス18億7910万円となりました。

一方、特別会計は六つの会計がありそれぞれの会計で決算が行われます。「国民健康保険」は、加入者が納める保険料や国・県からの交付金による歳入が115億6595万円で歳出が112億1838万円、市が支払った保険給付費は65億7552万円で被保険者は2万2641人でした。

「介護保険」は、保険料や国・県・市の負担金による歳入が98億2353万円で歳出が95億8240万円、市が支払った保険給付費は92億9021万円でした。市の65歳以上の高齢者は3万1546人（人口の32.1%）、要介護

の認定者は6376人でそのうち介護サービスを利用した方は5283人でした。「後期高齢者医療」は、保険料や市の負担金による歳入が18億8294万円で歳出が18億8276万円、市が支払った医療給付費相当額は9億5842万円でした。被保険者は1万7008人で前年より244人増加しています。

特別会計にはこのほかに、「公設地方卸売市場事業」、「下水道事業」、「農業集落排水等汚水処理事業」があります。特別会計の全体では、歳入が281億5338円で歳入が279億1473万円で、プラス2億3865万円となっています。

花巻市の財政状況は、主な基金（貯金）も27年度に6億円積み増すなど、概ね健全に推移していると言えます。ただ、地方債（借金）はこの10年で112億ほど減少させてきていますが、まだ983億円も残っており、花巻市は今後も引き続き無駄のない財政運営に努め、一層の財政健全化に取り組む意向とのことです。

（広報はなまき10/15号より）

第47回おおはさまワインまつり開催

9月18日、大迫町大迫のぶどうの丘地域でワインまつりが開催されました。第47回を迎えるこのイベントは、同町の秋の恒例行事となっており、今年も多くの来場者で賑わいました。

今年も、新設したカントリープラザをメイン会場に、ワイン娘によるぶどう踏みや早池峰神楽の演舞、ジャンボワインゼリーの早食い競争などが行われ参加者を楽しませていました。毎年参加している北上からの来場者は、今年も蔵出しワインがとてもおいしかったと満足げな様子でした。

今年は、エーデルワインが権威ある「第19回 ジャパ

ン ワイン チャレンジ2016」の赤ワイン部門で、国内最高賞「Trophy（トロフィー）」に輝きました。又、大迫には、ワインのテイスティングが出来る場所が開設されるなど、今や大迫のワインは花巻市の代表的なブランドになっています。

（広報はなまき10/15号より）



JAいわて花巻の「花巻ブルー」について

宮澤賢治の作品には色を表す言葉がたびたび登場する。「銀河鉄道の夜」にもカンパネラが「ああ、リンドウの花が咲いている」と言う場面がある。

昨年、「花巻ブルー」という花のブランドが立ち上がった。JAいわて花巻では花き栽培が長く行われており、リンドウなど現に生産されている青系の花々を、賢治の作品で印象的な「青色」に重ね合わせて「花巻ブルー」と総称し発信し始めた。

現在、「花巻ブルー」は4種類。春4月からクレマチスが咲き始め、カンパネラ、切り花リンドウ、鉢植えリンドウと秋まで展開していく。クレマチスは花巻が北限、切り花のカンパネラは花巻が全国一の産地、鉢植えリンドウは花巻が岩手リンドウの先駆けだった。

中でも注目は、JAいわて花巻だけでつくられている鉢花リンドウのオリジナル品種「花巻銀河ブルー」で、花が大きく開いた花卉の深い青と、雄しべ・雌しべの乳白色が星空のようにも見え、「銀河鉄道の夜」を連想させる。去年10月に開催された「第13回国際フラワー EXPO」の「フラワー大賞・鉢物部門」で優秀賞、(株) フラワーオー

クシヨウジャパンでの「JFIトレードフェア2016秋in FAJ」でも「ベストプランツ賞」を受賞した。

販売は花巻市内の産直「母ちゃんハウスだあすこ」、又、通販サイト「JAタウン」からも注文可能。JAいわて花巻でも電話注文を受けているとのこと。

「JAいわて花巻営農推進部園芸販売課」 Tel 0198-22-6217
「JAタウン」 <http://www.ja-town.com/>



切花リンドウ



カンパネラ (切花)

(花日和16年夏号他より)



カスリン・アイオン台風の被害 ： 瀬川の切り替えへ (第二回)



会員 北山 郁子

(花中33年卒)

台風襲来から一四日後の九月二八日、町議会はカスリン台風水害対策協議会を開会し嶋理三副議長が会議を進行し、北山町長が水害の被害状況調査と被災者救護の現況を報告しています。

それによると床上浸水九〇四戸、床下浸水一四二戸、流失家屋一四戸、半壊家屋一九戸(計一〇七九戸)、死亡者一名(逃げ遅れた高齢者)、家畜溺死牛一頭、浸水宅地一五万坪、工場被害額約五〇〇万円、水道被害約三〇万円、水田流失二五〇町歩、畑流失一四〇町歩と報告されています。また罹災者に対する救護支援の状況について

は、炊き出し三石六斗(九月一六日〜一九日まで)、配給品(マッチ四六個、石鹸四八五〇個、ローソク一八〇〇箱、味噌五三三匁、醤油五石六斗、木炭一二九俵、釘二〇樽)となっております。さらに予定されている特別配給品の見込みについて、畳二〇〇枚、シャツ、ズボン、毛布四〇〇枚その他鍋や釜、障子紙などを考慮していると報告されました。

衛生問題については、かなり神経を使ったようですが、その時点での水害による感染症は発生していないと報告されていますが、乾燥を待つてさらに消毒を実施し予防措置を続けていくとしています。

多大な被害を被った土木関連については、二七日に岩手県土木事務所主任と現地調査を済ませ、県の査定を待っていると

ころであると説明しています。義捐金は二八日時点で六万余円であり、花巻町としてはさらに各種団体の積極的な取り組みを要望しています。町議会は、引き続き水害問題に取り組んでいくために、この協議会において各常任委員から三名と議長を加えた一二名で構成する水害対策委員会を設置しました。

そして、このとき北山町長はこれまでの対応を通しての総括ともいえる見解を次のように述べています。
「今後の水害で痛感することは、将来の水害を恐れる。カスリン台風の特徴は雨量とともに増水の急速なる状況を見たことだ。これは、森林の乱伐であり河川の改修の不備が原因である。先ず、



当時の北山町長と町議会議員

北上川の改修が根本にあると思う」

「岩手の昭和史IV(岩手放送編)」の対談のなかで、災害史に残る辛い九月の日々が終わろうとしていたころの思い出を、父は聞き手の七宮氏に話しています。

「カスリン台風でひどい災害を受けた時に、町民大会を開きましてね、夜でしたが寒かったんですが、九月だったけども。野天で開いて決議を上げたんですがその時に、瀬川の改修と、瀬川というのは花巻温泉の方から流れてくる川です。小さい川なんですけれど、これがしよつ中あばれるんです。(略) いつでも、ちよつと雨が降ってもやられるんです。それから北上川の問題ですね。それにはどうしてもダムですね。猿ヶ石のダム、それを早く完成して堤防を作ってもうつと、こつうつとことを決議したんですよ」

九月に開かれたという町民大会は、町議会被害調査と現況報告があった二八日から三〇日の三日間のうちのいずれかに

開かれたことになりません。まだ生々しい傷も癒えないうちに町民大会を開き、瀬川の改修と北上川の治水をもとめて運動していこうというみんなの気持ちがかもった、寒い夜の熱い集会だったのではないのでしょうか。

一〇月一日町議会水害対策委員会(委員長金沢秀次)が開かれ、三日間にわたった現地調査を踏まえて復旧に關しての応急対策の概要を報告しました。

応急支出としては、炊き出し米(四石八斗)七一〇六円四〇銭、ローソク・マッチ七三円七〇銭、塩(四キ)一二〇円、運搬費二五〇円、計七五〇円一〇銭であり、これは町が支弁しています。義捐金は全体で八万六千七百六〇円であり、被災者家庭に見舞金合計で八万四千七百二円支出しています。その他に、衣類、毛布、釜、鍋などが配給の予定になっており、畳と障子については寒さに向かう季節であり早急な対策が必要だと報告されています。なかでも興味深いことは、「とくに藁の確保について委

員会が対応に当たる」とまで述べており、当時物資が不足しているうえに水害で田畑が被害を受け、藁さえも不足していたことを物語るものといえましよう。

また、瀬川の切り替え工事と北上川治水の問題について、永田兼蔵議員から関係する地域との連携した陳情が必要であるとの発言が出され、それを受けて北山町長は「本件に関しては町村会としても採択している懸案事項であるので、明日水害対策委員ほか関係者が上京し、陳情する」と答弁しています。花巻周辺の町村が一致して中央に対して陳情行動をしていくことに動き出していました。

カスリン台風の救済活動を省みて、町長は舟の用意がなく孤立した人たちの救助に時間を費やしてしまったことを重く考えていたようです。そこで、次の水害に備えて舟を準備しておくことを次年度の予算に提案しました。二隻の舟が瑞興寺の北側の壁面に常備されたのです。「今更こんな舟を用意しても、もう台風

は来ないだろう。使い物にならんだろう」と、父はみんなに冷やかされていたと言っていました。それが、なんと舟が設備されて間もなく、前年に続いて二度目の台風が同じ九月の一六日に襲来したのです。

アイオン台風は、四八年九月七日マールシャル諸島東部で発生し、西進しながら一六日午前房総半島に上陸しました。その後三陸海岸沿岸を北上し、北海道からオホーツク海へと抜けていきます。

前年と同じく関東地方全域から東北地方南部に多量の雨を降らせました。仙台で二五・一ミ、宮古で二四・九・三ミと前年の被害に追い打ちをかける結果となりました。とくに岩手県は北上川や支流が氾濫し一関地方中心に大洪水となり、死者三九二名・行方不明者二一六名、流失・浸水家屋二〇〇〇戸を超し、カスリン台風を上回る災害となりました。

堀合氏のレポートによると、アイオン台風に対する花巻の町の対応は素早いものでした。九月一

五日から降り始めた雨は、一六日午後には県下全域が豪雨となりました。

九月二六日午後一〇時非常警戒警報発令、小舟渡地内の道路決壊(堤防はなかつた)の危機的状況に避難命を発令しました。避難場所は宗青寺、雄山寺、瑞興寺の三方所で、一〇六九名を収容、他所へ五三名収容されたということです。

九月一七日、零時二〇分頃、懸念されていた小舟渡道路が決壊しました。一日市、坂本町、愛

岩地内がかスリン台風に続いて大きな洪水に見舞われました。ここで、備えられていた二隻の舟が大活躍したと、後年父は私たちに自分の判断が正しかったことを何度も話すことになったのでした。

四七年に警察法が改正されて自治体警察となり、それに伴って四八年には消防組織も町村の管理下になりました。それまでは地域ごとの団に分かれて、空襲に備えて演習をしていたのだと思います。

四八年には消防団は町の消防課の管轄となり各町の分団に分かれ、町長がすべての団を取り仕切る長でした。半纏を着て、長靴をはいて、帽子をかぶった父が軍隊さながら規律正しく采配を下し、消防演習をしていました。

当時消防自動車は旧式で、各分団はポンプ式の引き車が主体でした。演習の際にはいつでも水をかけられる

のは町長の家であり、その度に私たち家族は天井から漏れた水がポタポタ落ちてくるのを防ぐために、桶や洗面器を置いて回るのに忙しいのでした。私の幼ない記憶によると、よく訓練をしていた気がしましたので、この消防団はアイオン台風のときにはきつと大活躍したのではないかと想像しています。

このようにアイオン台風は前年の台風を上回る規模の災害だったので、レポートにはあらゆるところで迅速な対応をしたことが記述されています。

翌日の九月一七日には、町議会は水害緊急協議会を開催、二四日には第二回対策会議を開き、二八日には北山町長と町議会が岩手県に対して復旧工事促進の陳情をしました。当座の救護に対する支出内容を見ると、精米四俵、食塩・漬物六〇本、薪四〇把とあり、七九八四円となっておりです。

被害総額は一億五〇〇〇余万円、花巻地方(現・花巻市)の被災者

数四五九一名、死亡者一名、家屋流失・全壊二二戸、家屋半壊一戸、床上浸水六二〇戸、床下浸水二五五戸、埋没・流失水田四六町歩、冠水水田一五三九町歩、埋没・流失畑四三・二町歩、道路決壊四二カ所、橋梁流失一八カ所となつています。床上浸水の五七二戸に対して一戸当たり義捐金一三五円を配分しています。

二度目の水害は、私の家でも前年と違って早い時間に畳を上げて、それを高い場所に移動し、家具など動かせないものは縄で縛って流失しないよう準備をし、おにぎりなど食べ物も用意していました。母がモンペをはいて、なんだか忙しくしていた様子の映像が浮かんできます。そして、私はそのとき飼っていた黒うさぎをつれて、迎えに来てもらった叔父の自動車ダットサンに乗って母の実家に早めに避難したのでした。すべての人がこのときには前年の教訓を生かして行動したのだと思います。(続く)



当時の消防ポンプ



北山町長と及川助役

親睦
交流

第20回 歩こう会



未



訂正とお詫び

第49号の会報の8頁「第100回在京大迫人の集いのお知らせ」の記事に間違いがありました。在京大迫人会の記念誌「郷愛」を間違つて「愛郷」と記してしまいました。誠に申し訳なく、ここに訂正してお詫び致します。

会費納入のお願いと納入状況の報告

①会費納入のお願い

会員の皆様には在京花巻人会の運営にご協力をいただき、ありがとうございます。

28年度の会費の振込みがまだお済みでない方は、6月1日付第48号会報送付の際に同封いたしました赤い振込票(振込手数料不要)で郵便局から下記口座へ3,000円お振込み下さいますようお願い致します。

すでにお振込みいただいた会費は「会報の発行」、7月17日に開催した

「花巻人のつどい」に使用させていただいています。

記

□座名義 在京花巻人会

□座記号番号 00240-6-111794

②会費納入のお礼と納入状況

28年度の会費納入は12月31日現在257名771,000円です。

皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光 板垣雅子